



# Symbol & Technique of Japanese Garden

NAKATA KATSUYASU

The East Palace(東院)Garden

# Symbol & Technique of Japanese Garden

日本庭園の造形は自然の風景を表象化するところから生まれた要素もあるし、近代以降は自然の風景や物語にインスピレーションにより抽象的に造形化する場合もある。しかし、多くの庭園は宗教的内容をシンボルとして表現し発展した。庭園を深く理解するために、以下に宗教と造形の関係を示す。

## INTRODUCTION: 日本庭園の核になる時代思想の概要

### Symbol of Japanese Garden

- ① 「神道の庭」は古来より巨石（磐座への畏敬）・美しい山を神と崇め神道の原点。備考) 6～9 P 参照 事例写真 1
- ② 「神仙蓬莱思想」は不老不死の願望を満たす（飛鳥・奈良時代から現代まで）備考) 10～14 P 参照、事例写真 2  
飛鳥時代になると中国、韓国から神仙蓬莱思想が伝えられた。この思想は不老不死への願望を満たしてくれそうなので、秦の始皇帝から始まり、漢の武帝など古代中国の権力者がこの思想に熱狂した。日本でもこの思想はすぐに蔓延し、「島大臣」と言われた蘇我入鹿も池を作り、その中に蓬莱山島を作って不老長寿の儀式を行った
- ③ 「極楽浄土思想」は末法への怯えから（平安時代）備考) 15～29 P 参照 事例写真 3、4  
平安時代の末期になると律令時代のほころびが覆うべくもなく明らかになり、天変地異があり、世の中が不安の時代になってきた。そこで予てより噂のあった「末法の時代」の到来ではないか、との不安が拡大し、末法の時代が来ると確信し、極楽浄土思想が定着した。  
この世に極楽を再現すれば簡単に極楽浄土に行けると考え、そこで平等院に始まる極楽テーマの庭が始まった。
- ④ 「禅宗思想」が日本庭園の精神性を高めた（鎌倉・室町時代）備考) 30～59 P 参照 事例写真 5～8  
古代仏教の矛盾を打破すべく法然、親鸞などが新しく大衆のための仏教を打ち立てようとしていた。栄西は従来の台宗に飽き足らず 1168 年、1187 年と二度にわたり入宋し臨済禅を収め帰朝した。道元は建仁時の栄西に学んだ後、1223 年念願の入宋を果たし、如浄より法を受け 1227 年帰朝した。日本における禅宗が勃興した。  
一方中国において宋は元に滅ぼされ、南宋が細々存続していた。中国から蘭溪道隆を招聘し禅宗が隆盛した。蘭溪道隆こそ禅庭園を始めた人物で、その後龍門瀑が庭園のメインテーマになる。更にその後、夢想疎石が自然の中での悟りの場として日本庭園を位置づけた。以上の経過で日本庭園は悟りの手段として作られるに及んで、単なる鑑賞物から精神性を備えた庭になった。
- ⑤ 「浄土真宗」による民衆救済の庭 貴族の浄土宗と異なって民衆の救済の庭。備考) 60～69 P 参照 事例写真 9
- ⑥ 「真言密教の庭」は仁王般若經の教理を視覚化した。言わば「立体曼荼羅の庭」といえる。備考) 70～72 P 事例写真 10
- ⑦ 「日蓮宗」による民衆救済の庭

### Technique of Japanese Garden

- ① 古代においては平面的な地割が多い。石組は池庭周辺部の平面的な造形が主体 備考) 74 P 参照 例示写真 11
- ② 世界言語として日本庭園を世界に発信する（現代）備考) 75～79 P 参照 例示写真 12, 13  
日本庭園は各時代の伝統を受け継ぎながら、「石という永遠の素材を使い、大自然を抽出する」という知的な芸術活動の所産だ。人間はいかに機械化されようとも自然の一部であるから、大自然からは離れて生きることが出来ない。現代芸術は試行錯誤中であるが、日本庭園は世界言語としてこれからも発展するであろう。
- ③ 画僧雪舟による「遠近法」手法は庭園にも採用された。備考) 80 P 参照 例示写真 14, 15
- ④ 「逆遠近法」洋の東西を問わず宗教画で採用されるが、庭園でも重要な手法。備考) 80 P 参照 例示写真 16
- ⑤ 枯山水庭園は寸土に世界を観る（室町時代）備考) 83～84 P 参照、例示写真 17, 18  
従来の池泉庭園は広大な敷地を必要とした。枯山水の庭園は禅寺の一隅でも作ることが出来、比較的狭い庭が誕生する。狭いからこそ少ない石で推敲された石組みは抽象化される。
- ⑥ 「借景の手法」は背後の大自然の山並みと対極にある人工造形にすべき。備考) 85～92 P 参照 例示写真 19, 20  
単純に庭園の背後に山並みが見えるだけでは成立しない。大自然の風景と対峙する人工造形の庭にする必要がある。借景の庭には大自然に類似の山並みや、水の流れ、灯籠、橋などの日常的な造形は排除すべきで、抽象的な人工造形に徹したい。

## I Symbol (宗教の説話を視覚化した庭)



写真1 「神道の庭」: 秀麗な山や奇跡的な奇岩を神が宿ると畏敬した。【旧関山宝厳院(妙高市)】



写真2 「神仙蓬莱の庭」: 不老不死の Symbol として鶴島・亀島・蓬莱山をテーマとした。【金地院(京都市)】



写真3 「極楽浄土の庭」: 抽象洲浜は極楽の Symbol (東院)



写真4 「九山八海の庭」: 宇宙の Symbol (益田市)



写真5 「坐禅石」: 修行道場 Symbol (永保寺)



写真6 「龍門瀑」: 修行道場の Symbol (苔寺)



写真7 「水月観音の道場」: 立体水墨画(瑞泉寺)



写真8 龍腹護岸: 「龍が化身」した Symbol (碧巖寺)



写真9 浄土真宗の説教の庭: 白亀・栈橋は「易行水道楽」の Symbol 【赤田家(長浜市)】

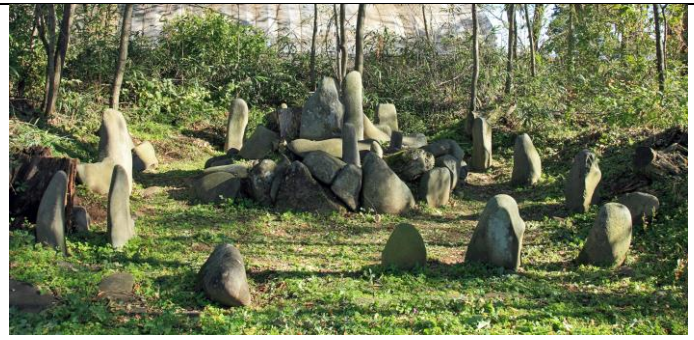


写真10 「真言密教の庭」: 仁王般若経の五智如来をテーマとした「立体曼荼羅」と言える(松本市)

## II Technique ( 錯覚の活用、地割の重要性、借景の庭とは)



写真 11 古代においては洲浜による平面的な地割が多い



写真 12 桂家庭園：個人所有の小さな庭が世界言語に



写真 13 古来の日本庭園の伝統と近代抽象主義の融合



写真 14 遠近法の庭(雪舟水墨画の三次元化):常栄寺



写真 15 「遠近法と借景」の技法:龍安寺



写真 16 「逆遠近法」と欠損石の選択:前垣家



写真 17「極小の庭」狭い場所へは単純な石組:龍源院



写真 18「小さな場所にはテーマは一つ」:漢陽寺



写真 19「借景の庭」美しい大自然と雄大な構想の九山八海:久留島家



写真 20「借景の庭」の極意は大自然と対極的な「抽象的枯山水庭園」庭園は自然の景色を模倣するのではなく(松、滝、川、橋などは不要)、人工造形物に徹する。なお、自然界と人工界の区切りは明確に行う。:興禅寺。

# INDEX

## I Symbol (宗教)

I Symbol (宗教)	4
1 日本神道の庭	6
1.1 磐座への信仰 (原始神道)	6
1.2 神道の庭	6
2 道教思想：神仙蓬莱思想は不老不死の願望を満たす	10
2.1 道教の教理	10
2.2 道教の神仙蓬莱思想と鶴島・亀島庭園 (飛鳥京苑池・苔寺・金閣寺・深田家・龍安寺・金地院・西本願寺・旧秀隣寺・東福寺)	12
3 極楽浄土：地上に極楽を作る	15
3.1 極楽浄土と末法思想の教理	15
3.2 九山八海と須弥山の教理	15
3.3 極楽浄土の庭	18
3.3.1 洲浜・出島 (庭園における洲浜の造形は単なる自然の写しではなく、極楽の象徴 (東院・平等院・浄瑠璃寺・毛越寺・苔寺・天龍寺・桂離宮・仙洞御所・光明院・松尾大社))	18
3.3.2 九山八海と須弥山 (須弥山のモデルとなった実在の山：カイラス山) (東院・毛越寺・天龍寺・北畠神社・酬恩庵廟前庭園・萬福寺・久留島家)	21
3.3.3 三尊石組の系譜 名古曾の滝・金閣寺・銀閣寺・保国寺・小川家・深田家・萬福寺・朝倉遺跡・普賢寺 二条城・天遮煙・向嶽寺・円徳院・東海庵・本法寺・福田寺・青岸寺・金地院	25
4 禅宗	30
4.1 禅宗の伝記および教理	30
4.1.1 蘭溪道隆が始めて龍門瀑を作る (1213~78)	30
4.1.2 禅宗思想の庭は禅語録・水墨画の視覚化による	32
4.2 禅宗の庭	33
4.2.1 坐禅石または坐禅窟の系譜 (永保寺・吸江庵・退耕庵・瑞泉寺・苔寺・天龍寺・金閣寺・銀閣寺・酬恩庵)	33
4.2.2.1 龍門瀑の系譜-1 ① 説話の原点になる実在の滝：壺口瀑布・龍門の滝 ② 庭園：東光寺・光前寺・苔寺・天龍寺・金閣寺・保国寺・常栄寺・普賢寺・萬福寺・碧巖 ③ 大仙院・酬恩庵・名古屋城・百瀬家・村上家・浅野家・善能寺・西山家・松尾大社	37
4.2.2.2 龍門瀑の系譜-2 (鯉魚が龍に化身する瞬間の造形) ①常栄寺 ②碧巖寺 ③徳島城 (千秋閣表御殿)	45
4.2.3 聖樹による祈りの聖域 ①建長寺 ②大徳寺 ③金地院	48
4.2.4 水墨画の影響を受けた庭 ① 永保寺 ②瑞泉寺 ③金閣寺-碧巖寺 ④常栄寺 ⑤大仙院 ⑥退蔵院 ⑦岐阜城 ⑧福田寺 ⑨阿波国分寺 ⑩粉河寺	50
5 浄土真宗	60
5.1 浄土真宗の教理	60
5.2 浄土真宗の庭 ①願行寺 ②赤田家 ③福田寺 (米原市) ④浄土真宗の「二河白道」をモチーフとした桂離	66
6 真言宗の庭 6.1 真言宗の教理 6.2 真言宗の庭	70
7 日蓮宗の庭 本法寺	73

II Technique (作庭技法)	74
<b>1 地割</b>	
1.1 平安時代までの平面的な庭、	74
①東院 ②毛越寺 ③浄瑠璃寺 ④平等院	
1.2 鎌倉・室町時代に山畔に作られた立体造形の庭は、やがて平坦部での立体造形になる。	75
①苔寺 ②天龍寺 ③保国寺 ④常栄寺 ⑤萬福寺 ⑥青岸寺 ⑦岡山後楽園 ⑧粉河寺	
⑨久留島家 ⑩桂家	
1.3.1 現代(中根・重森)に作られた山畔への立体造形	76
①足立美術館 ②松尾大社	
1.3.2 現代(重森三玲)において平坦部に作られた立体造形の庭を中心にして例示する	77
①井上家 ②村上家 ③小倉家 ④前垣家 ⑤岡本家 ⑥織田家 ⑦村上家 ⑧小河家 ⑨久保家 ⑩芦田家	
1.4 現代(重森三玲)の視点を移動すると立体造形が連続的に変化する(多視点のビューポイント)	78
①岸和田城 ②松尾大社	
<b>2 錯覚</b>	80
2.1 遠近法	80
2.2 逆遠近法(捨石)	80
2.3 庭園の手前に立石があると、背後の景色が動くように錯覚させる方法	80
2.4 入れ違える洲浜で奥行きを感じさせる方法	82
2.5 長さ方向を強調させる方法	81
<b>3 変形の土地に対応</b>	83
3.1 極小の庭	83
①前垣家 ②桑田家 ③清原家 ④龍源院	
3.2 Single Issue(主体となる造形のみ)	83
①斧原家 ②漢陽寺	
3.3 間口の幅に対して奥行きが極端に浅い地形	84
①春日大社 ②本休寺	
<b>4 借景</b>	85
4.1 借景の理論	85
『伝統との対決』 岡本太郎著	85
4.2 古典庭園の事例	86
4.2.1 古典庭園全般	86
①圓通寺 ②正伝寺 ③頼久寺 ④城福寺 ⑤大通寺 ⑥大徳寺 ⑦桂家 ⑧久留島家	
4.2.2 龍安寺と借景	89
4.2.2.1 龍安寺の現状写真	89
4.2.2.2 文献上のデータ	90
4.3 現代(重森三玲)	91
4.2.3.1 重森三玲の借景論	91
4.2.3.2 重森における借景庭園	92
①西谷家 ②小倉家 ③織田家 ④北野美術館 ⑤興禅寺	